



まちの保健室(準拠点型)



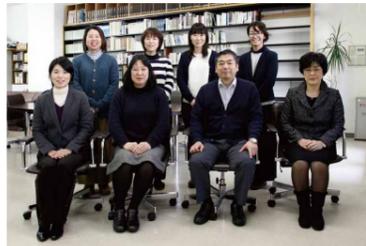
2017年9月25日から27日の3日間、倉吉市内の13地区公民館で「まちの保健室」を実施しました。これは、健康で居心地のいい地域づくりをめざし、教員とまめんなかえ師範がキャラバン隊を組み、住民と学生が参加する「まちの保健室」(準拠点型)として実施したもので、住民189名の参加がありました。
「生活健康論」の実習として参加した看護大学生にとって、住民の方へ日頃の健康づくりについてインタビューできる貴重な場となりました。
各会場とも、笑顔あふれるなごやかな雰囲気のもと健康をふりかえる機会となりました。

鳥取看護大学 見学会

2017年度もたくさんの方々に鳥取看護大学へお越しいただきました。
三朝町大昭老人クラブ(11名)、山根地区公民館(17名)、正應寺女性会(20名)、あすなる会会員(19名)等。
グローバルセンターでは大学見学会を承っています。お気軽に、お問い合わせください。



学生相談室 紹介



鳥取短期大学学生相談室は、学生が個人的な相談を行える場所として1993年に開設しました。悩みを抱えた学生が気軽に相談できるよう、関連領域を専門とする教員、各学科教員、保健室職員(養護教諭)、学外の心理カウンセラーも加わり、支援体制をとっています。
2017年からは新たに学生支援室も設置し、学生支援員による履修手続きや学習の支援を実施しています。学生相談室は、今後も学生のニーズに添った支援体制の強化に努めます。



白石由美子ソプラノリサイタル

本年3月末に定年退職される鳥取短期大学 幼児教育保育学科 白石由美子教授(声楽)のソプラノリサイタルが開催されます。

○日時 2018年3月12日(月)PM7:00～ ○会場 倉吉未来中心 小ホール

- プログラム
さくら横ちょう(中田喜直)
サルビア
オペラ「フィガロの結婚」(モーツァルト)～愛の神 みそなわせ～
オペラ「夕鶴」より(團 伊玖磨)～さようなら～ その他
ピアノ 新田恵理子
- 主催 鳥取短期大学 音楽研究室 ●後援 新日本海新聞社
 - 入場料 1,500円
 - 問合せ先 鳥取看護大学・鳥取短期大学グローバルセンター
TEL (0858) 27-0107



グローバルセンターをご利用下さい

鳥取看護大学・鳥取短期大学では、個人・団体による大学見学会、講演会講師の依頼、大学の施設利用や教員の専門分野に関するご相談などに随時対応しています。
詳しくはグローバルセンターまでお問い合わせ下さい。

<発行> 鳥取看護大学・鳥取短期大学グローバルセンター 〒682-8555 鳥取県倉吉市福庭854
TEL:0858-27-0107 FAX:0858-26-9138 E-mail:glocal@ns.cygnus.ac.jp

<印刷> 有限会社 矢積印刷 倉吉市宮川町2-36

とっとりプラットフォーム5+ α

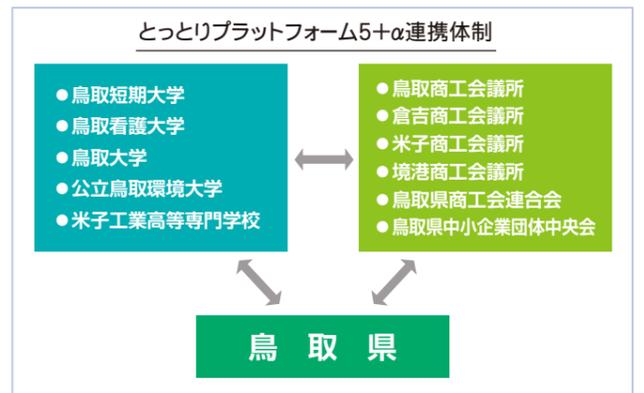
鳥取短期大学は、2018年2月5日に文部科学省の私立大学補助金の一つである「私立大学等改革総合支援事業タイプ5」に選定されました。選定に先立って2017年10月25日に鳥取短期大学がまとめ役となり、鳥取県内の5つの高等教育機関と鳥取県・産業界等が包括連携協定書を締結しました。具体的には、鳥取県内の高等教育および地域の更なる活性化の推進を目的とし、大学間のe-ラーニングの推進、若者の県内大学進学、県内企業への就職の促進、鳥取県の合計特殊出生率の向上等に積極的に取り組んでいきます。

第1回運営協議会(2017年10月13日開催)では、プラットフォーム5+ α としての基本方針・ロードマップ・学術分野マップの策定・具体的な数値目標、また今後の取り組み等について協議を行いました。

今年度は、全国で9のプラットフォームが選ばれ、「とっとりプラットフォーム5+ α 」はその1つとして、中国四国地方の大学・短期大学では唯一選定されました。

今後、本取組みがお互いの教育力、運営力を高め、さらに鳥取県の地域課題を解決できる一助になると信じています。

とっとりプラットフォーム5+ α
※名称の由来:鳥取県内の5つの高等教育機関+鳥取県および産業界



セント・トーマス大学との学術協定

鳥取看護大学 教授 荒川 満枝

2017年11月10日、鳥取看護大学 近田敬子学長がフィリピン共和国マニラにあるセント・トーマス大学(以下UST)を訪問し、UST看護学部長のマラヴィラ先生と国際交流委員長であるコルテス先生が見守られる中、学術協定書への署名を行いました。USTは、1611年創立のアジア最古の大学で、由緒ある建物と歴史を持ち、大統領や知識人を多く輩出しているマニラの有名私立大学です。これまで本学とは、共同研究、講演会開催を行っており、2017年7月にはUSTの看護学生9名の研修を受け入れ、学生同士の温かい関係が芽吹いた中、学術協定締結が適うこととなりました。

今後、本学の教員や学生を派遣し、看護について互いの意見を交わす将来が大変楽しみとなりました。



地域交流・地域連携

「聞き書き集 鳥取県中部地震の記憶」を作成し、 鳥取県知事を表敬訪問しました

地震発生から1年を迎えた2017年10月21日に『聞き書き集 鳥取県中部地震の記憶』を発行しました。鳥取県からの委託を受けて取組んだもので、鳥取看護大学の学生8名、鳥取看護大学・鳥取短期大学の教員3名が編集に関わりました。学生たちは特に被害の大きかった倉吉市、湯梨浜町、北栄町、三朝町の被災者や復旧・復興を支援している10人から体験を聞き取りました。聞き取りには語り手と聞き手の対話を通じて、語り手の体験や心情を言葉で紡ぎだす「聞き書き」という手法を用い、1冊の冊子としてまとめました。10月20日には、平井伸治鳥取県知事を表敬訪問し、完成を報告しました。



この冊子は鳥取県立図書館や市町村立図書館、県内の高校などに配布したほか、本学の附属図書館でも閲覧できます。



その他の取組み

- ★「公開講座（倉吉市委託事業）」開講（6/23・7/21・8/4・8/18・9/15）
- ★とっとり県民カレッジ講座「未来をひらく鳥取学」開講（7/7・9/1）
- ★「絵本ワールド in とっとり2017」実施（11/18・19）
- ★「くらし国際交流フェスティバル2017」実施（11/26）



企業との連携

株式会社サンセキより学生が墓石デザインの表彰を受けました（10/12）

株式会社サンセキとの墓石デザイン制作に関する協定に基づき、鳥取短期大学生生活学科住居・デザイン専攻の1年生が、前期「デザイン概論」の授業で墓石のデザイン制作に取組みました。4つの作品が最優秀作品（石井あゆみさん）、優秀作品（澤田真琴さん、住田結さん、田中春花さん）に選ばれ、本学にて行われた第1回表彰式では、サンセキの熊野俊也代表取締役社長から表彰状と記念品が授与されました。最優秀に選ばれた石井さんの作品は、スタンドグラスを使用したデザインで、墓石の暗いイメージを明るく転換させることをコンセプトにしています。今後は、実用性を考慮しながら、学生たちの墓石デザイン商品化に向けてプロジェクトが動き始める予定です。



シグナス祭で「グローバルカフェ」を出店しました（10/21）

シグナス祭（大学祭）の初日、グローバルセンターによる「グローバルカフェ」を出店しました。スタッフが各国の民族衣装を着用し、この日のために世界各国から集めたお茶やお菓子を提供しました。たくさんのお客さまにご来店いただき、世界地図・海外の写真の鑑賞や沖縄の音楽などさまざまな文化に触れる楽しいひとときを過ごしていただきました。グローバルセンターは、本学と海外・地域をつなぐ窓口として、これからも交流と研究の拠点となり情報発信を行います。



地域へはばたく学生を PICK UP!

オペレッタ 概要

鳥取短期大学幼児教育保育学科では、1992年より「特別研究」を選択科目として開講し、教員による指導のもと学生が1年かけて研究を行っています。白石由美子教授（専門：声楽）の研究室では『オペレッタ』を指導しており、毎年2月頃に行う成果発表会や地域公演に向けて取り組んでいます。『オペレッタ』は、「軽歌劇」とも呼ばれ、オペラと同様にマイクを使用せず、生の声で演じるのが特徴です。学生は、題材選びから脚本、音楽の編集、手づくりによる衣装や大道具製作など、舞台を一から作り上げていきます。

インタビュー

幼児教育保育学科
2年 遠藤 清くん、福田 純花さんに
聞きました！



Q.今年度の演目はどのように決めましたか？

遠藤：6月頃にどの演目にするか皆でいくつか案を出しました。なぜその演目がやりたいか、それぞれがプレゼンを行って、投票した結果、今年度は『白雪姫』に決定しました。

Q.どのような役割がありますか？

遠藤：全体をまとめるリーダーがいて、衣装、大道具、脚本、音楽の班に分かれて制作に取り組んでいます。裏方と演者に分かれている訳ではなく、全員が制作に携わるとともに出演もしています。
福田：役についてはオーディションがあり、配役が決められました。

Q.難しかったこと・悩んだことは？

福田：役になりきること、個性を出すことが難しかったです。
遠藤：皆が演じることが初めてだったので、役柄の性格を考慮することや、急に「違う個性の人」になることが大変でした。

Q.頑張ったことは？

遠藤：大道具の班長をしているので、その責任や人間関係の難しさを感じることもありましたが、友達が頑張っているのを頑張ろうと思えました。
福田：一度決めたことは最後までやりきりたいと思いました。

Q. オペレッタの見どころは？

遠藤：大道具に力を入れているので、ぜひ見てほしいです。
福田：華やかな見た目ですが、毎日遅くまで練習しているので、その成果をお見せしたいです。

Q. 身についたこと・学んだこと

福田：よいものを作るためには多少の対立もありますが、自分の意見をしっかりと言うことが必要だと感じました。
遠藤：卒業生からの指導もあり、そういったつながりもありがたいです。制作の経験は社会に出てからの実務にも役に立つと思います。演じることでは、人前で恥ずかしがらずにやることや表現の基礎を学びました

先生へ一言

指導のために毎日夜遅くまで残っていただきありがとうございます。先生の指導は、厳しい中にも愛があります。これからも輝き続けてください！大好きです！



担当教員：白石由美子先生

学生の様子

先輩のオペレッタを観たことをきっかけに「演じてみたい」と履修をします。何もない所から全て、学生自身の力で一つの舞台を仕上げます。労力を惜みず、納得のいくまで話し合い、ぶつかり、真剣に取り組む学生の情熱と意欲にいつも驚かされます。

役割や地域における取組み

すべての授業が終わった2月下旬の約10日間に、それまで楽しみに待って下さった地域の保育園、幼稚園、施設、こどもの国、わらべ館等へ大学バスで旅一座のように一日2回公演で回ります。若さ溢れる演技は毎年とても好評で、県外からの依頼も10数年続いています。学生たちは、公演を通して地域から多くのことを学んでいます。

教員紹介



鳥取短期大学
国際文化交流学科
助教 レヴィ レイモンド

- 出身：カナダ、オンタリオ州トロント
- 専門分野：日本学、経済学
- 学位：学士（人文科学）
- 最終学歴：マックマスター大学人文科学学部

私が短大に勤務し5年が経ちました。赴任したのがつい昨日の日のことのように思えます。勤務するまで鳥取県中部地区のことはよく知りませんでしたが、今では公私ともに地域に関わる機会が増えました。ここ数年は「くらし国際交流フェスティバル」に参加しており、国を越えて学び合える機会として、この企画がこれからも続くことを願っています。教育については、鳥取県の高校英語スピーチコンテストを通じて英語教育の促進にも努めてきました。全国語学教育学会の鳥取県の会員としても、地域の英語教育者と共に英語教育の方法、知識、技術が発展するよう活動に努めていきたいと思っています。